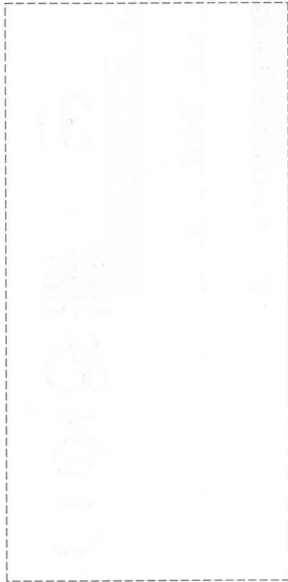


◀同書より（写真 森本二太郎氏）

書いてみよう

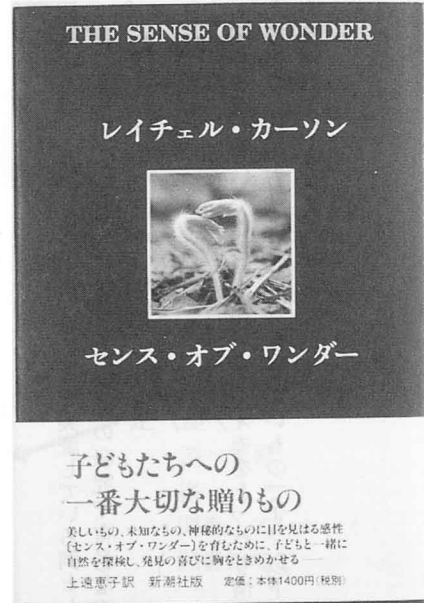
■この文章で述べられていることと同じような自然体験を、書いてみよう。



たく惑星……。流れ星がひとつつたつ地球の大気圏に飛びこんできて燃えつきました。わたしはそのとき、もし、このながめが一世紀に一回か、あるいは人間の一生のうちたった一回しか見られないものだとしたら、この小さな岬は見物人であふれてしまうだろうと考えていました。けれども、実際には、同じような光景は毎年何十回も見ることが出来ます。そして、そこに住む人々は頭上の美しさを気にもとめません。見ようと思えばほとんど毎晩見ることが出来るために、おそらくは一度も見ることがないのです。

たとえ、たったひとつの星の名前すら知らなくとも、子どもたちといっしょに宇宙のはてしない広さのなかに心を解き放ち、ただよわせるといった体験を共有することは出来ます。そして、子どもといっしょに宇宙の美しさに酔いながら、いま見ているものもつ意味に思いをめぐらし、驚嘆することもできるのです。

〔センス・オブ・ワンダー〕レイチェル・カーソン著 上遠恵子訳 新潮社



「センス・オブ・ワンダー」レイチェル・カーソン著 上遠恵子訳 新潮社

■初めて海を見たときのことを考えて、どんな感覚がしたか、思い出してみよう。

